

(別冊 2) 平成 29 年度 熊本市エイズ総合対策報告書

平成 29 年度 ボランティアグループとの 取り組みについて

平成 30 年 3 月

熊本市保健所 感染症対策課

目次

I	熊本大学ピアカウンセリングサークル「くまぴあ」との取り組み	1
	(高校文化祭でのキャンペーン)	
II	熊本の若者によるエイズ啓発グループ「Safe LOVE Kumamoto」	
	との取り組み (啓発キャンペーン)	4
III	ゲイ支援グループ「Safety Blanket」との取り組み	11

I 熊本大学ピアカウンセリングサークル「くまぴあ」との取り組み

1 概要

熊本大学ピアカウンセリングサークル「くまぴあ」の協力のもと、若い世代の行動変容に効果があるとされるピアエデュケーション（仲間教育）※の手法を取り入れ、高校文化祭でキャンペーンを行った。

また、年間を通して、くまぴあメンバーと打ち合わせや勉強会を重ねながらキャンペーンに取り組んだ。

※ピアエデュケーション（仲間教育）：同じような年代・境遇の人たちからの教育。共感を得やすく、自分のこととして考える機会を提供することができる。

2 くまぴあについて

熊本大学医学部保健学科看護学専攻、教育学部養護教諭養成課程の学生を中心としたグループ。ピアカウンセリングの手法を取り入れたワークショップ（コミュニケーション・ライフプラン・性などについて）などを通し、ピア（仲間）として高校生や大学生と一緒に良いコミュニケーションについて考えたり、エイズ・性感染症や性に関する正しい知識を伝えたりする活動を行っている。

3 高校文化祭でのピアエデュケーション（仲間教育）の手法を使った啓発キャンペーン

（1）概要

高校文化祭では、保健委員の取り組みとして参加するため、事前に保健委員への説明会と勉強会を行った。当日はできる範囲で保健委員にも答え合わせに参加してもらった。

（2）キャンペーン内容

- ①文化祭会場にて、来場者へクイズ・アンケートに答えてもらう。
- ②その答え合わせと解説を、くまぴあが行い、参加者と話しながらエイズ・性感染症について一緒に考える。
- ③啓発グッズやパンフレットをお土産に渡す。
- ④その他、会場には啓発パネルなどを掲示する。

（3）実績

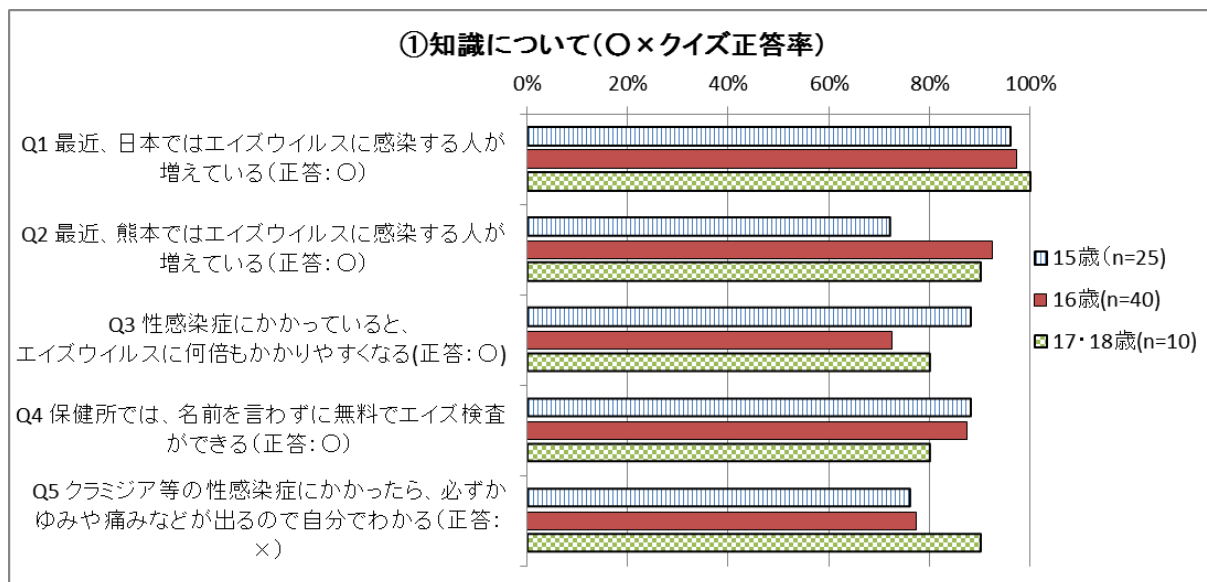
くまぴあ10名が参加。高校1校1日間実施した。

①高校文化祭

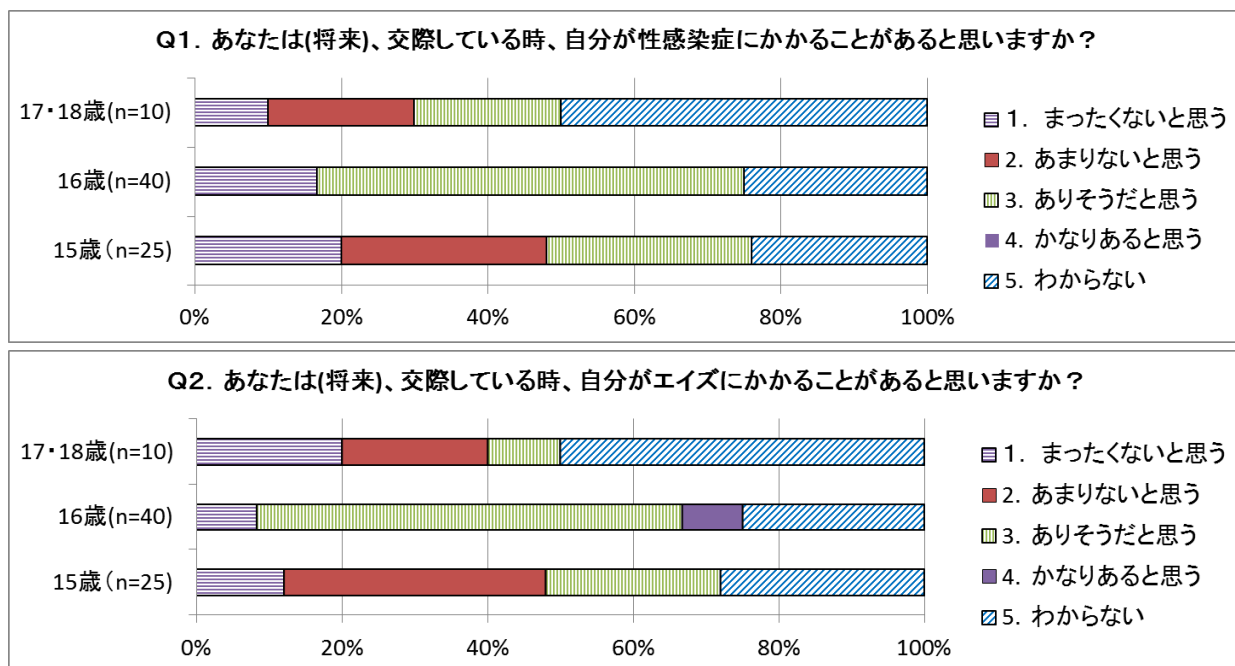
- ・熊本市立必由館高校 9月23日（土）10：20～14：40
高校保健委員 29人、クイズ参加者 91人

(4) クイズアンケート結果

- ①知識 エイズ・性感染症に関する5問の〇×クイズを行った。エイズが「日本で増えている」に比べ「熊本で増えている」の正答率が低かったことから、熊本にも関係ある問題であることを伝えていく必要があると思われる。



- ②意識 将来自分が性感染症及びエイズに感染することがあると思うかについてたずねた。繰り返し、情報の提供を行っていく必要があると考えられた。



(5) 評価

ピアエデュケーションの手法を取り入れ実施することで、高校生や大学生に、エイズや性感染症について身近に考える機会を提供することができた。

活動にピアエデュケーターとして参加した大学生や高校生自身にとっても、自分の人生や伝え方について考える機会となった。

【活動の様子】



【クイズアンケート用紙】

クイズに挑戦!!

☆正しいと思うものには○を、間違っていると思うものには×をつけてください☆

	○ or ×
Q 1. 最近、日本ではエイズウイルスに感染する人が増えている	
Q 2. 最近、熊本ではエイズウイルスに感染する人が増えている	
Q 3. 性感染症にかかっていると、 エイズウイルスに何倍もかかりやすくなる	
Q 4. 保健所では、名前を言わずに無料でエイズ検査ができる	
Q 5. クラミジア等の性感染症にかかったら、 必ずかゆみや痛みなどが出るので自分でわかる	

☆あてはまる番号に○をつけてください☆

Q 1. あなたは(将来)、交際している時、自分が性感染症にかかることがあると思いますか？

1. まったくないと思う
2. あまりないと思う
3. ありそうだと思う
4. かなりあると思う
5. わからない

Q 2. あなたは(将来)、交際している時、自分がエイズにかかることがあると思いますか？

1. まったくないと思う
2. あまりないと思う
3. ありそうだと思う
4. かなりあると思う
5. わからない

☆最後にあなたのことを教えてください☆

性別： 男性 女性

年齢： () 歳

Ⅱ 熊本市の若者によるエイズ啓発ボランティアグループ「Safe LOVE Kumamoto」との取り組み

1 Safe LOVE Kumamotoについて

平成25年度の街頭キャンペーンを実施するにあたり結成。毎年、大学生を中心に集まり、若い世代の社会人も協力をしながら啓発キャンペーンなどを企画実施している。29年度の参加者は11名だった。



2 10代・20代の意識調査

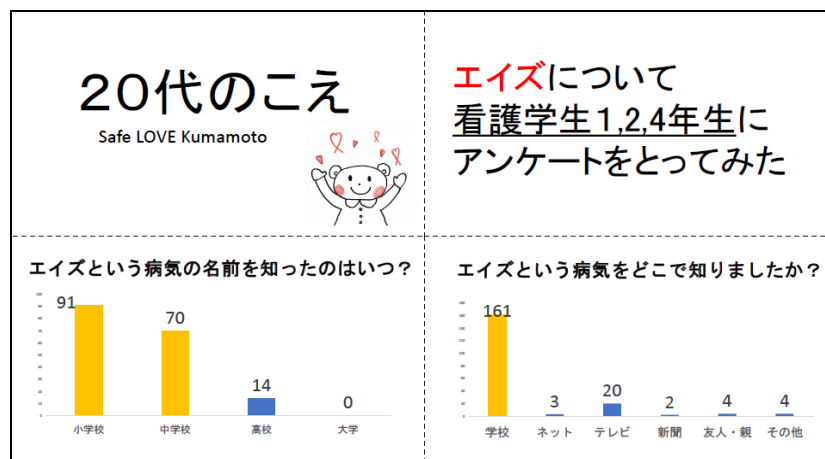
今年度のキャンペーン企画を行うにあたり、大学生が主体となって、10代・20代の大学生（看護学生）200人を対象に、エイズに関するアンケート調査（イメージ、知識、予防・検査についての意識等）を行った。

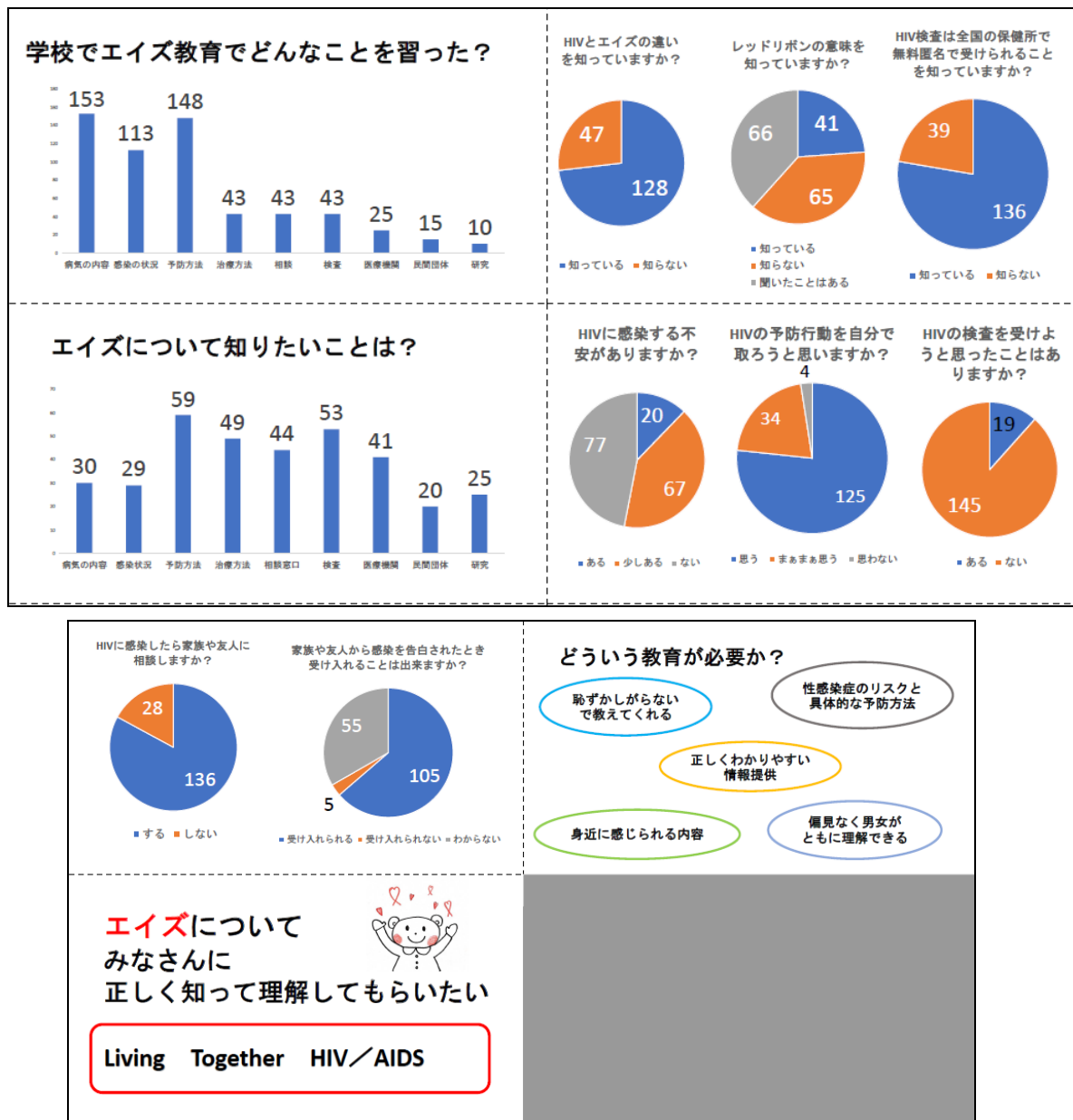
その結果をふまえ、学校という場での継続した教育や考える場の提供の必要性や、自分の身近な問題として感じてもらうための工夫をキャンペーンに取り入れることとした。

また、今回の調査結果を、各キャンペーンで発表することとした。

【アンケート結果 概要】

- ・エイズという病気を知ったのは、義務教育期間が多く、情報を得るのも学校が大多数
- ・学校では病気の内容や予防について習った人が多く、相談・治療・検査については情報提供が少ない
- ・知りたい情報は相談・治療についてが多かった
- ・HIVに感染する不安を持つ人は少なく、検査に積極的な人は少なかった
- ・HIV感染に対する具体的なイメージがなく、自分事として捉えられていない（他人事）





3 平成29年度 啓発キャンペーン

熊本市教育委員会（学校保健会）や、独立行政法人JICA九州デスク熊本と協力して以下のキャンペーンを行った。

また、実施に当たり、感染症対策課職員による勉強会や、打合せを行った。

（1）学校保健会主催イベント「からだの楽校」での啓発キャンペーン

①概要 熊本市学校保健会主催のイベントにて、PTA 関係者、学校関係者（健康教育関係）、医療関係者（学校医等）、地域住民等に対し、啓発を行った。

②日時 平成29年12月1日（土） 13:50～16:30

③場所 フードパル熊本

④内容 学校関係者や小学生など小さなお子様への啓発を意識して企画実施した。

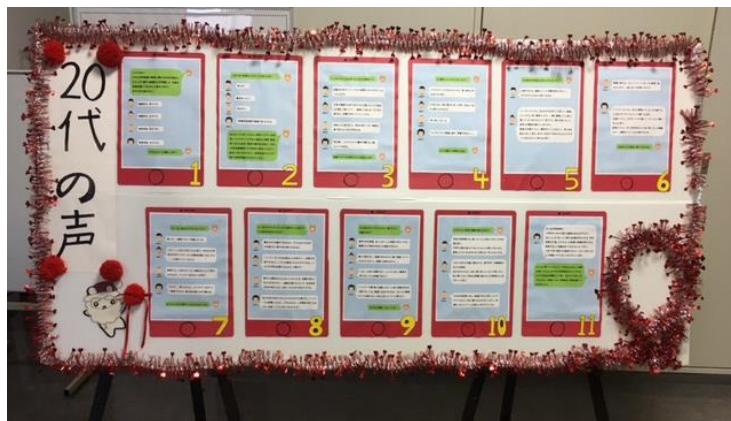
ア ブースでの啓発

▼エイズクイズ 5問の〇×クイズに回答してもらい、大学生が解説をした。
クイズは大人向けと、小学生以下向けの2種類を準備した。

▼パネル展示 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし」、エイズの基礎知識のほか、大学生が作製したパネル「20代の声※」を展示した。

※20代の友人4名にエイズについてインタビューを行った内容をまとめたもの。

「かしこまらなくていいから、こんなふうに気軽に率直に、エイズについて語り合おうよ」というメッセージも込められている。



【パネルの内容】

① こんにちは！
今日は将来医療や教育に携わる20代の皆さんにエイズに関する意識などを把握して、今後の啓発活動につなげたいと考えてます！
まずは自己紹介から！

看護学生、男子です。

看護学生、女子です。

教育学部、男子です。

教育学部、女子です。

今日はよろしくお願いします！

② 12月1日が世界エイズデーって知ってる？

知らない

最近知ったよ！

知らない。

教員採用試験の勉強で知ったかな。

知らない人が多いだね。世界エイズデーは世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO(世界保健機関)が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われているよ！

③ エイズのイメージとか知っていることを教えて！

免疫力が低下して、いろんな病気にかかりやすくなるってことかな

大学で勉強するまではだんだん弱ってって死ぬとか怖いと思ってた…。勉強したあとは、そこまで怖くない、治療できるってイメージかな

発症したら治らないし、死ぬと思う。でも、発症を遅く抑えることはできるよね。

死の病…。エイズっていう響きが嫌だね。悪いイメージがある。

知識でイメージが変わることもあるんだね

④ もし周りにエイズの人がいいたら？

どうしたらいいかわからないから、特に変わらず生活すると思う

どうもしない。特に変わらないと思う。告白してきたら受け入れるかな

特に気にしないな

エイズについて勉強し直す。想像できない…。

みんな意外と冷静なんだね

⑤ もし自分の大切な人がエイズになったら？

心配するかな。病院にいったら治療始めてほしい。子どもがどうなるかは気になるかな…

パートナーだったら、自分は大丈夫か？と思って、検査しにくいかな。HIV感染したら、一緒に病院にいくと思う。言ってくれてありがたと思うけど、周りが気になって、相手との関係が壊れてしまうかも。

家族や友達だったら、偏見をもつことはないし、特に何も変わらないと思う。自分には何ができなかなとかどうサポートできるかなって考えます。

⑥ 普通に接する。でもパートナーに対しては普通に接せないかも…。話し合いが必要になりそう

パートナーだったら、自分も感染していないか心配だね。とりあえずいろいろとネットで調べると思う。友達だったら、大丈夫？とか心配して、ネットなどで調べまくると思う。

家族だったら、がんを告知されたときと同じくいろいろの衝撃かも…。病院行った？とか心配するかな。

大切な人だと身近に感じてきたかな

⑦ もしいま、自分がエイズになったら？

怖い…。病院に行って治療したいね。

つらい…。しばらく引きこもると思う。できるだけ学校は行きたいけど、そんな精神状態じゃないかも…。人生終わってかんじ

絶望…。とりあえずいろいろ調べないといけない。子どもとか、パートナーをすること自体も

やだな…。信じられない。エイズのことをネットで検索するかな。薬を飲み続けるのも嫌だね。

自分のことだと冷静でいられなくなるんだね

⑧ もし自分がエイズになったら心配なことはある？
その後の生活はどうか？

働きながら治療ができるのか、子どもはどうなかが心配だね。周りの目も気になるよね。

パートナーがいれば心配なことが多そう…。免疫力が低下するから、いろんな病気にかかりやすくなるし、いろんな予防も必要になるよね。大変かも…

周りから偏見をもたれるんじゃないかな。知識がある人なら大丈夫だけど…。通院が増えるくらいで、生活自体はあまり変わらないと思う。子どもはできないかもね。

自分の命や体がこれからどうなるのか心配だね。パートナーにも影響しそうだし、つられるかも…。世間体も気になるよね。友達にバレたときどうなるのかな…

⑨

もし自分がエイズになったら、周りの人に相談できる？

信用できる家族、友人とかにしか相談できないかな。
看護だから学校の先生にも相談できるかも

誰にも話せない。相談できなさそう。誰に相談していいかわからないし、母親には話せるかも…。

しない。本当に信頼できて、エイズに対して偏見を持たない人には相談できそう。

パートナーや親(特に母親)にはいう。命に危険があるなら言わないとね。普通に生活できるなら、友人とか職場の人には言わない。休むときにエイズで言えない

なかなか相談しづらいんだね

⑩

どうやってら君の意識が変わるかな？

学校の性教育かな。怖いということを知っておくことが必要と思う。
中学では行方であつることくらいしか習ってないから、感染したらどうなるのかなど教えるべきじゃないかな。

小さいときから印象に残るように、怖すぎず、注意喚起するような教育。
自分とはかからないと他人事になっている人が多いから、他人事じゃなく身近な問題に感じよう教育をしたほうが良いと思う。

日本は性教育に対して敏感すぎと思う。エイズだけではなくて性に関するものはもっと正しい知識を。あとコンドームは使ったほうが良いよね。

⑪

やっぱり学校教育！
小学生のときから教わる機会はあるはずだから。まんべんなく広い人に教える必要があるときは、学校教育が大事。そのためには教員の意識改革だね。教員が正しい知識を持っておかないといけない。
小学・中学・高校でも勉強するから、小さいときから正しい知識をつけておいたほうが良いと思う。

みんなが言っているように、大切なのは正しい知識を身につけることができる性教育を行うことですね。エイズを身近な問題として捉え、自分や大切な人を守るために、検査にいき、早期発見・早期治療につなげましょう！

【エイズクイズ】

クイズにちょうせん!!

正しいと思うものに○を、間違っていると思うものに×をつけてください。

※ 正しいはエイズを予防する重要なクイズです。

① 近所、日本でも梅毒でもHIVに感染する人が増えている。	☐
② HIVに感染した人と一緒にプールで泳いだら感染する。	☐
③ HIVに感染した人と一緒に食事すると感染する。	☐
④ HIVに感染した人の唇にくしゃみで感染する。	☐
⑤ HIVに感染すると体のていこうが弱くなる。	☐

こたえあわせをしよう！
おわたつた声をかけてください！

最後にあなたのことを覚えてください！

性別： 男の子 女の子

学年： () 年生

クイズに挑戦!!

正しいと思うものに○を、間違っていると思うものに×をつけてください。

※ 正しいは、HIVを予防する重要なクイズです。答えが正しくないと、感染する可能性があります。

① 近所、日本でも梅毒でもHIVに感染する人が増えている。	☐
② HIVに感染した人と一緒にプールで泳いだら感染する。	☐
③ HIVに感染した人と一緒に食事すると感染する。	☐
④ HIVに感染した人の唇にくしゃみで感染する。	☐
⑤ HIVに感染すると体のていこうが弱くなる。	☐

こたえあわせをしよう！
おわたつた声をかけてください！

最後にあなたのことを覚えてください！

性別： 男の子 女の子

学年： () 年生

【ブースの様子】



イ ステージでの啓発

▼レッドリボンファッションショー、10代・20代の意識調査結果の発表

レッドリボンをあしらった衣装で、パネルを持ち、観客にメッセージを伝えた。
ショーに引き続き、大学生が調査結果のプレゼンテーションを行った。

【ショーの様子】



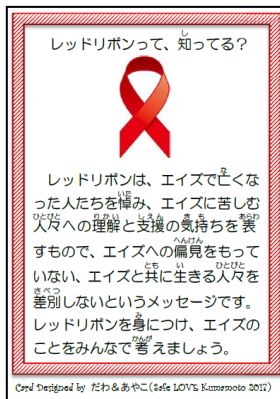
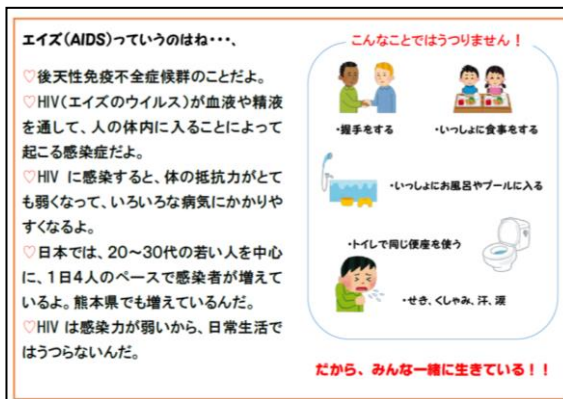
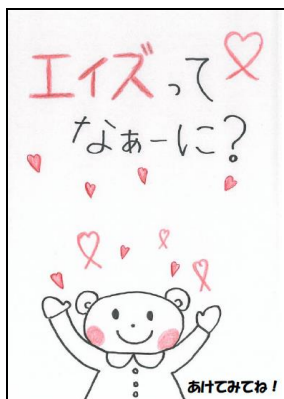
ウ オリジナルカードの作成・配布

小学生向けのオリジナルカード（２つ折）を作成し、ポケットティッシュと一緒に配布した。

〔表紙〕

〔中面〕

〔裏表紙〕



⑤実績

ア 来場者 150名（学校保健会発表）

イ 参加人数 大学生9人、感染症対策課 2人

⑥評価 ・企画からボランティアの学生主導で進めていくことができた。

・教育関係者や小学生以下への啓発の機会を得ることができた。

・学生が自分たちの言葉で伝えることで、より身近に感じてもらうことができたと考えられた。



（２）エイズフォーラム「世界で熊本で、今、エイズを考える」の開催

①概要 JICAデスク熊本主催（後援：熊本市、協力：熊本市感染症対策課）のフォーラムにて、アンケート調査結果の発表や、啓発物の配布を行った。

②日時 平成29年12月16日（土） 13：30～16：30

③場所 熊本市国際交流会館

④内容 以下のプログラムの企画準備・発表を行った。

ア プログラム

- ・開会「JICAについて」「世界、日本、熊本のエイズの現状」
- ・講演「タイと南アフリカでの患者ケアの取り組み」
（日赤和歌山医療センター 医師 益田 充 先生）
「ガボンでのエイズ啓発の取り組み」
（元青年海外協力隊（2015～2017年派遣）助産師 坂口 ^{ゆきえ}結映 先生）
「熊本の現状とエイズ対策の取り組み」
（熊本市感染症対策課 技術参事 泉 真理子）
- ・発表「熊本の10代・20代のエイズ意識調査報告」
（熊本大学学生4人：Safe LOVE Kumamoto）
- ・ワークショップ「自分にできることを見つけよう」「わたしの宣言」

イ オリジナルカード及びパンフレットの配布

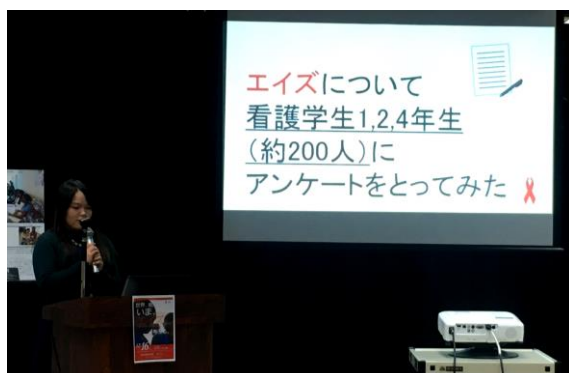
ウ パネル展「HIV×（日常）×わたし。」をエントランスに展示（12/12～16）

【講演の様子】

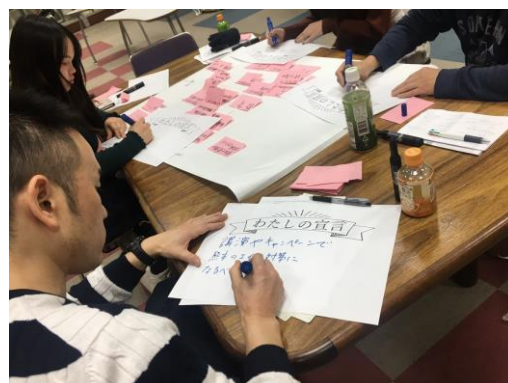


（上左：益田先生、上右：坂口先生、下左：泉技術参事、下中：JICA 熊本デスク 阿南氏、下右：会場の様子）

【大学生の発表】



【ワークショップの様子】



【パネル展の様子】



- ⑤実績 参加者 23人、取材 2件（熊本日日新聞社、西日本新聞社）
- ⑥評価 ・企画からボランティアの学生等と進めていくことができた。
- ・アンケート調査発表等により若い世代の意識や今後の課題について参加者へ伝えることができた。
- ・ワークショップに大学生も参加することで、様々な立場の方との意見交換を通して、学生自身もエイズについて考えを深める機会となった。

Ⅲ ゲイ支援グループ「Safety Blanket」との取り組み

1 背景

国内のHIV感染者・エイズ患者（日本国籍）のうち、約6割が男性同性間の性的接触による感染と多くを占めており、MSM（男性間で性行為をするものを言う、以下同じ。）への予防啓発・教育と検査の推進が急務とされている。

熊本県のMSM人口は、成人男性（20～59歳）の約4.9%※といわれており、熊本市内にも複数のゲイ向け商業施設等がある。しかし、偏見や差別が存在している社会背景等や、性的指向の側面で配慮が必要なことから、これらコミュニティへの行政による積極的な介入は逆効果と言われており、本市においてもこれまで有効なアプローチ方法がなく、長年、当事者グループによる主体的な活動が望まれてきた。

※出典：H24年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」（代表市川誠一）

2 経緯

平成26年8月に、福岡のNPO「LOVE ACT FUKUOKA (LAF)」代表 牧園氏から市感染症対策課へ、「熊本で活動しているゲイ当事者によるサークル「KK」のメンバーが、行政と連絡を取ることを希望している」との連絡があった。これを受け、9月に、関係者による連絡会を開催し、協働に向けた取組みを開始した。

※グループ名は、28年2月に「KK」から「Safety Blanket」（通称「セーブ」）へ改名された。

3 Safety Blanket について

（1）構成 熊本在住の20～30代男性 5名

（2）主な取り組み

- ・コミュニティペーパーの作成及びゲイバーやイベント等での配布
- ・ブログ等インターネットを活用した情報発信
- ・当事者対象の茶話会の実施
- ・セクシュアルマイノリティ当事者として、各種研修会等での講演活動
- ・熊本市保健所とのエイズ啓発に関する取組み

4 熊本市と Safety Blanket との協働について（29 年度実績）※詳細は P17～18 参照

（１）連絡会

- ・ 拡大会及び担当者連絡会議として 4 回実施した。
- ・ 拡大会では、Safety Blanket、LOVE Act Fukuoka 代表（福岡の NP0）、熊本大学医学部附属病院エイズ診療従事者、熊本県、熊本市による今後の取り組みについての意見交換や活動状況の報告を行った。
- ・ 担当者連絡会議は、Safety Blanket、熊本大学医学部附属病院エイズ診療従事者、熊本市の担当者等少人数で、具体的な活動案について意見交換を行った。
- ・ その他、熊本市の担当者と Safety Blanket のメンバーが連絡を取り合いながら、活動を進めた。

（２）勉強会兼交流会

- ・ 5 月、10 月、12 月に MSM 対象の勉強会を実施し、延べ 19 人（スタッフ含む）が参加した。

（３）検査情報等の発信

- ・ 特例検査の案内を SNS（Twitter 等）で紹介
- ・ 熊本市エイズ検査相談のページに Safety Blanket の Facebook ページをリンクした。

（４）ゲイコミュニティへの資材提供

- ・ バーやハッテン場等へ、ポスターやチラシ、コンドーム等を提供
- ・ ゲイクラブイベントにてコンドームを配布、会場にポスターを掲示

（５）相談室内への掲示板の設置

- ・ 熊本市保健所のエイズ相談室の掲示板に Safety Blanket の紹介などを掲示している。

5 評価

ゲイ当事者によるグループと協力し合いながら活動をすることで、ゲイコミュニティへ確実に情報を届けることができている。今後も、継続して活動を行うことが重要と考えられる。

6 30 年度計画と今後の展望

- ・ これまでの取組みに加え、10 代・20 代の若い世代をターゲットにした情報発信のため、SNS（インスタグラム等）を活用した啓発を開始する。
- ・ Safety Blanket 主体の活動を行政や医療関係者が継続して支援していく。

●平成26年8月に、福岡のNPO「LOVE ACT FUKUOKA（LAF）」代表 牧園氏から市感染症対策課へ、「熊本で活動しているゲイ当事者サークル「KK※」のメンバーが、行政と連絡を取ることを希望している」との連絡があり、協働に向けた取組みを開始。9月に、熊本大学医学部附属病院関係者や県の担当者も含めて第1回目の連絡会を実施し、情報交換を行った。その後の取組みは以下のとおり。
※グループ名は、28年2月に「KK」から「Safety Blanket」（通称「セーブ」）へ改名された。

		日時	場所	出席者		内容	
26年度	第1回連絡会（拡大会）	平成26年9月1日（月） 19：30～	ウェルパルクまもと 4階会議室	13名	・KK：2名 ・熊大：5名 市：3名	・LAF：1名 ・熊本県：2名 ・熊本	●関係者が集まり、それぞれの活動状況等について情報交換を行った。 1. 自己紹介 2. 熊本市のエイズ対策 3. 当事者の活動について 4. 情報交換
	第2回連絡会	平成26年10月17日（金） 19：00～	ウェルパルクまもと 4階会議室	6名	・KK：2名 市：3名	・LAF：1名 ・熊本	●具体的な活動案について意見交換 1. 自己紹介 2. 熊本市のエイズ対策 3. KKの活動について 4. 意見交換 ・これからの協働について
	第3回連絡会	平成26年12月12日（金） 19：00～	ウェルパルクまもと 4階会議室	7名	・KK：3名 市：3名	・熊大：1名 ・熊本	●具体的な活動案について意見交換 1. 前回の続き～意見交換 ・啓発物のデザイン、フリーペーパーの作製 ・勉強会について ・報告書に記載する名前について 2. 近況報告 ・KKの活動 ・熊本市の啓発（エイズデー関連） 3. お知らせなど ・12/14特例検査の実施
	パネル展 インタビュー	平成27年1月29日（木） 18：30～	市内喫茶店	4名	・KK：2名 本市：1名	・SaLK※：1名 ・熊	SaLKと熊本市の協働で企画したパネル展「HIV×（日常）×わたし。」のインタビューにKKメンバーが協力
	KK茶話会 （第1回）	平成27年2月20日（金） 19：30～	中央公民館	12名	・KK：3名 ・市民：9名		ゲイ当事者の懇親会（当事者のみのクローズで実施）
	●26年度は、お互いの状況についての情報交換を主に取り組んだ。（連絡会3回、茶話会1回、他）						

		日時	場所	出席者		内容	
27年度	第4回連絡会 （拡大会）	平成27年4月23日（木） 19：00～	ウェルパルクまもと 4階会議室	9名	・KK：1名 ・熊大：4名	・LAF：1名 ・熊本市：3名	●今後の活動について意見交換 1. 平成26年度の取組み状況について（報告） 2. KKの活動について（KK） 3. エイズに関するトピックス（松下教授） 4. これからの協働について意見交換 ・今年度の見通し ・フリーペーパー、啓発ステッカーの作製、勉強会など
	KK茶話会 （第2回）	平成27年5月22日（金） 18：10～	中央公民館	12名	・KK 2名	・市民 10名	ゲイ当事者の懇親会（当事者のみのクローズで実施）
	勉強会 （KK対象）	平成27年5月27日（水） 10：00～	ウェルパルクまもと 4階会議室	2名	・KK：1名	・熊本市：1名	・エイズの基礎知識、質疑応答 ・勉強会イベントについての打合せ
	勉強会イベント打合せ	平成27年6月6日、27日	ウェルパルク、市内喫 茶店等	3名	・KK：1名 ・熊本市：1名	・熊大：1名	・イベントの構成、内容、広報などについて
	勉強会イベント （市民対象）	平成27年6月28日（日） 13：30～15：30	ウェルパルクまもと 1階会議室	7名	・KK：1名 ・熊本市：1名	・熊大：1名 ・市民 4名	●ゲイ当事者対象の勉強会イベント ・講師：熊本大学医学部附属病院 看護師 高木氏 熊本市感染症対策課 泉氏 ・内容：「エイズについての基礎知識」 「感染したらどうなるの」 「意識調査と意見交換（フリートーク）」
	第5回連絡会	平成27年8月24日（月） 18：00～	ウェルパルクまもと 4階会議室	6名	・KK：2名 市：3名	・熊大：1名 ・熊本	●具体的な活動案について意見交換 1. エイズ対策会議について 2. 啓発ステッカー、コンドーム作製について 3. これまでの活動とこれからの活動について （勉強会、茶話会の企画）
	平成27年度熊本市エイ ズ総合対策推進会議	平成27年9月7日（月） 13：30～15：30	ウェルパルクまもと 大会議室	34名	・エイズ総合対策推進会議委員 20名 ・熊本市（関係各課）4名 （感染症対策課）7名 ・熊本県：2名 ・KK：1名		●会議でKKと熊本市の取組み紹介 ●代表が自身の経験や活動によせる思いなどを紹介
	啓発物作成打合せ	平成27年9月22日（火） 21：00～	市内飲食店	3名	・KK：2名	・熊本市：1名	・コンドームステッカー作製打合せ ・勉強会企画、その他連絡事項
	KK茶話会 （第3回）	平成27年10月24日（土） 13：30～16：00	中央公民館	5名	・KK：1名 市：1名	・市民：3名 ・熊本	・ゲイ当事者の懇親会（当事者のみのクローズで実施） ・エイズについて
	第6回連絡会	平成27年11月19日（木） 19：30～	ウェルパルクまもと 4階会議室	6名	・KK：2名 市：3名	・熊大：1名 ・熊本	●具体的な活動案について意見交換 1. 啓発ステッカー、コンドーム作製について 2. これまでの活動とこれからの活動について （勉強会、茶話会の企画）
	啓発物作成打合せ	平成28年1月14日（木） 20：30～	市内飲食店	3名	・KK：2名	・熊本市：1名	・啓発物作製打合せ（グッズ、検査促進チラシ） ・茶話会企画、その他連絡事項
	啓発物作成打合せ	平成28年1月21日（木） 20：00～	市内飲食店	3名	・KK：2名	・熊本市：1名	・啓発物作製打合せ（グッズ、検査促進チラシ） ・その他連絡事項
	啓発物作成打合せ	平成28年1月30日（土） 21：00～	市内飲食店	4名	・KK：2名 市：1名	・市民：1名 ・熊本	・啓発物作製打合せ（検査促進チラシ） ・その他連絡事項

		日時	場所	出席者		内容
27年度	Safety Blanket茶話会（第4回）	平成28年2月6日（土） 13：00～15：00	中央公民館	7名	・Safety Blanket：2名 ・市民：5名	・ゲイ当事者の懇親会（当事者のみのクローズで実施） ・エイズについて
	打合せ	平成28年3月11日（金） 21：00～	市内飲食店	3名	・Safety Blanket：2名 ・熊本市：1名	・啓発物受け渡し、近況報告、今後の活動について
	Safety Blanket茶話会（第5回）	平成28年3月24日（火） 13：00～15：00	中央公民館	6名	・Safety Blanket：1名 ・市民：5名	・ゲイ当事者の懇親会（当事者のみのクローズで実施） ・エイズについて
	第7回連絡会	平成28年3月29日（火） 19：00～	ウェルパルくまもと 1階会議室	6名	・Safety Blanket：2名 ・熊大：1名 ・熊本市：3名	●27年度報告と28年度計画について ・近況報告 ・来年度計画 他
	啓発物作製・配布状況	・コンドーム添付用ステッカー作製：1000枚、ステッカー添付コンドーム配布 約500個（ゲイバー、イベント、相談室等） ・チラシ作製：1000枚、配布 約150枚（ゲイバー、学生等） ・啓発用消しゴム作製：600個、配布 約50個（Safety Blanket茶話会、研修会等）				
	●27年度は、連絡会や担当者間のミーティング、啓発物の作製を行う中で情報共有を重ねながら、取り組みを行った。（連絡会4回、勉強会2回、茶話会4回、他SNS等を活用した打合せ等） ※KKは平成28年2月にSafety Blanketへ改称					

※熊本市の若者によるエイズ啓発ボランティアグループ「Safe LOVE Kumamoto」

		日時	場所	出席者		内容
28年度	Safety Blanket茶話会（第6回）	平成28年6月26日（日） 15：30～	市内飲食店	9名	・Safety Blanket：2名　・市民：7名	・ゲイ当事者の懇親会（当事者のみのクローズで実施） ・エイズについて
	第5回連絡会（拡大会）	平成28年9月5日（月） 18：30～	熊本大学病院多目的室	15名	・Safety Blanket：2名　・LAF：1名 ・熊大：10名　・熊本県：1名　・熊本市：1名	●最近の知見や今後の活動について意見交換
	●28年度は、熊本地震の影響により、活動が少なかったが、担当者間での情報共有や、Safety Blanket関連のSNSを通じた検査情報の提供等は継続実施した。（連絡会1回、茶話会1回、他SNS等を活用した打合せ等）					

		日時	場所	出席者		内容
29年度	Safety Blanket勉強会兼交流会（第1回）	平成29年5月31日（水） 18：00～21：00	ウェルパルくまもと1階会議室	7名	・Safety Blanket　2名 ・熊本市：1名　・市民　4名	●ゲイ当事者対象の勉強会イベント ・講師：熊本市感染症対策課　泉 ・内容：交流をしながらの勉強会：エイズについて知ってることやエピソードを語り合い、エイズの現状（世界、日本、熊本）、感染の仕組み、予防と検査、感染後の生活、その他の性感染症などについての基礎講座を受ける
	第1回連絡会	平成29年10月16日（月） 18：00～	ウェルパルくまもと4階会議室	3名	・Safety Blanket：1名　・熊本市：2名	・近況報告　　・意見交換　　・勉強会企画
	Safety Blanket勉強会兼交流会（第2回）	平成29年10月25日（水） 18：00～21：00	ウェルパルくまもと1階会議室	9名	・Safety Blanket：1名　・熊大：1名 ・熊本市：1名　・市民　6名	●ゲイ当事者対象の勉強会イベント ・アドバイザー：熊本大学附属病院　看護師　高木氏 熊本市感染症対策課　泉 ・内容：交流をしながらの勉強会：エイズについて知ってることやエピソードを語り合い、エイズの現状（世界、日本、熊本）、感染の仕組み、予防と検査、感染後の生活、その他の性感染症などについて学ぶ
	第2回連絡会（拡大会）	平成29年11月10日（金） 18：00～	エイズ学研究センター4階会議室	5名	・Safety Blanket：1名　・熊大：3名 ・熊本市：1名	・近況報告　　・意見交換
	第3回連絡会（拡大会）	平成29年11月30日（木） 18：30～	熊大病院感染免疫診療部外来	13名	・Safety Blanket：1名　・熊大：6名 ・熊本県：4名　・熊本市：2名	・トピックス　・近況報告　　・意見交換
	Safety Blanket勉強会兼交流会（第3回）	平成29年12月4日（月） 18：00～21：00	ウェルパルくまもと1階会議室	4名	・Safety Blanket：2名 ・熊本市：1名　・市民　1名	●10代・20代限定勉強会兼交流会イベント ・対象年齢者の参加はなかったが、集まったメンバーで今後の企画等について意見交換を行った
	第4回連絡会	平成30年3月15日（木） 20：00～	市内飲食店	3名	・Safety Blanket：2名　・熊本市：1名	・近況報告　　・今後の取り組みについて具体的な意見交換 ※インスタグラムを活用した情報発信、啓発チラシの作製を行うこととした
	●29年度は、連絡会や担当者間のミーティングを重ねながら、勉強会兼交流会の開催を軸に取り組みを行った。（連絡会4回、勉強会2回、茶話会4回、他SNS等を活用した打合せ等） また、今後、若い世代を対象とした新しい取り組みとしてインスタグラムなどSNSを活用した啓発を行うための準備を行った。					